

エルムだより

第2号
2018.12

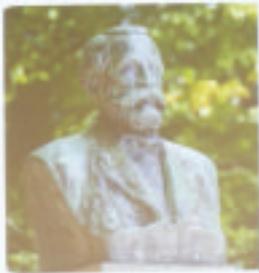
未来を担う卒業生紹介

「AIで拓く無限の可能性」

— サッポロから世界に発信 —

6

歓迎式典・記念講演会



Be gentleman
A Lofty Ambition

Boys, Be ambitious
James Thurston

Boys, be ambitious

Be ambitious not for money or for selfish accomplishment,
not for that evanescent thing which men call fame.
Be ambitious for the attainment of all that a man ought to be.

お金、利己、はかなき名声のためではなく
人間としての本分をなすべく大望を抱け



北海道大学校友会エルム
HOKKAIDO UNIVERSITY
ALUMNI ASSOCIATION ELM

ホームカミングデー 2018 開催報告



▲歓迎の挨拶を述べる石山会長

北海道大学ホームカミングデーは、卒業・修了生が母校に集い世代を超えた親睦を深めていただくことを目的として、キャンパスのいたるところで、紅葉や銀杏が色づく毎秋に開催しているものです。

7回目を迎えた今年のホームカミングデーは、9月28日(金)～9月30日(日)の3日間天候にも恵まれ北海道の秋の爽やかな風を感じられ

るなか、多くの参加者が札幌キャンパスに集いました。「歓迎式典」では、名和豊春総長から、「北海道大学142年の歩みと2つの使命」と題してこれまでの北海道大学の歩みや現在の取組、目指すべき姿について報告があり、「2026年の創基150周年を見据え、同窓生をはじめとするすべての関係者と力を合わせてさらに邁進していきたい。」とのメッセージが伝えられました。

続いて、石山喬北海道大学校友会エール会長から、参加者への歓迎の挨拶がありましたので、校友会会員の皆様に一部を抜粋してご紹介いたします。

「北海道大学を取り巻く状況は、国の財政状況等もあり、益々厳しくなっております。昨年、今年と関係者の努力と皆様のご支援によりまして、企業との共同研究やフロンティア基金への寄付が増加しつつありますがまだまだ大変厳しい状況であります。今一度、母校を思い、後輩に思いを寄せ、北海道大学で学んだ価値を思い起こし、その価値を更に磨くために、十数万人の同窓生が力を合

せて大学を支援することを呼びかけていきたいと思っております。今日は同窓生と北海道大学をつなぐ1日です。深まりゆく秋のキャンパスで学生時代を思い、過ごし、北海道大学の今を楽しんでください。北海道大学が同窓生とともにフロンティアに挑戦し続け、創基150周年に向けて新たな歴史を築き発展していくことを切に願って、ご挨拶とさせていただきます。」

Contents

ホームカミングデー特集

ホームカミングデー 2018 開催報告(石山会長挨拶)	2
「OB 講演会及び在学生との懇談会」開催	3
「保護者会員懇談会及びキャンパスツアー」実施	4
基礎同窓会活動報告(ほっかいどう同窓会)	5



▲講演会の様子

北海道大学校友会エールでは、ホームカミングデーの主催イベントとして、平成30年9月28日(金)百年記念会館大会議室において、「OB 講演会及び在学生との懇談会」を開催いたしました。

このイベントは、在学生からの「企業の第一線で活躍されているOBの講演や懇談できる機会が欲しい」との要望に応じて企画したもので、

「OB 講演会及び在学生との懇談会」開催

です。

OB 講演会では、各業界で活躍する5名の先輩達からご講演いただき、官庁・企業を志望した理由から始まり、現在の担当業務、学生時代の就職活動、やりがいや今後の目標などについて本音で語られ、開催趣旨に相応しい内容となりました。

講演終了後の懇談会では、幅広い年代層の卒業生にもご参加いた



▲懇談会の様子

き、企業等における実際の勤務の様子など、活発な懇談が行われ、参加された在学生からも有意義な機会だったとの声が寄せられました。

当日、ご参加いただきました卒業生及びご支援いただきました基礎同窓会の皆様に厚くお礼申し上げます。



▲森本氏による講演



▲懇談会の様子

講演者

北海道庁	森本雄介氏	(法学部、2008年卒)
札幌市役所	高橋健太氏	(法学部、2004年卒)
三井不動産(株)	安田有希氏	(工学部、2014年卒)
北海道電力(株)	新納裕樹氏	(工学部、2004年卒)
(株)北洋銀行	千葉史也氏	(経済学部、2009年卒)

基礎同窓会活動報告

「石狩湾新港発電所見学会」開催

ほっかいどう同窓会



▲国内最大規模のLNGタンク建設現場の見学&説明



▲「コンバインドサイクル発電」設備の見学&説明

▲「石狩湾新港発電所見学会」発電所工事現場と位置図



「ほっかいどう同窓会」では、道内の各種施設等を見学し、北海道が抱える問題・課題について認識するとともに同窓生と在学生の交流を図ることを目的として見学会を開催いたしました。

今回は、9月21日（金）秋晴れのなか、北海道電力（株）の道内初となるLNG（液化天然ガス）を燃料とする「石狩湾新港発電所」建設現場を見学しました。

「石狩湾新港発電所」1号機は、来年2月に営業運転に入ることとなり、その後、2号機3号機が順次建設される予定であり、老朽化している既設発電所に代わって北海道の電力需要に対応していく重要な発電所となります。今回の見学会は、参加した方々（学生13名を含む22名）にとつて、自らの知的好奇心を満足させるとともに、本年9月6日道内295万戸が全停電した「ブラックアウト」再発の不安解消に繋がる貴重な機会となりました。

当該発電所の特徴である「コンバインドサイクル発電方式」は、次のような特徴を備えています。

- 【1 高い発電効率】
- 【2 優れた運用性】
- 【3 優れた環境特性】

「コンバインドサイクル発電方式」は「ガスタービン」と「蒸気タービン」を組み合わせて発電する世界トップクラス約62%の発電効率を有する。

発電出力の上昇・下降の時間が短いことから、刻々と変化する電力需要への即応が可能。

発電時のCO₂の排出量を抑制。



▲加藤助教による植物園の説明

「保護者会員懇談会及びキャンパスツアー」実施

ホームカミングデー2018報告



▲湯浅教授による博物館の説明

北海道大学校友会エルムでは、ホームカミングデーの主催イベントとして、平成30年9月29日（土）に校友会エルム保護者会員を対象に「懇談会及びキャンパスツアー」を実施いたしました。

懇談会は、ファカルティハウス「エンレイソウ」内の「レストランエルム」において、校友会エルムの委員会委員も交えて、昼食をとりながら、校友会エルムが実施する事業等の説明及び懇談を行いました。



▲「レストランエルム」での懇談会の様子

引き続き、バスによるキャンパスツアーを行い、最初に訪問した植物園では、加藤助教による説明の後、普段は一般展示されていない所蔵庫等も特別に開放していただきました。

その後、モデルバーン、平成ポプラ並木、北大農場を見学し、最後の総合博物館では、湯浅教授に博物館の詳細な説明をいただき、各展示室では展示物の解説がありました。

参加の皆様からは、「校友会エルムの活動と北大をより知ることができ、大変有意義であった。」との意見も寄せられ、保護者会員の皆様及び校友会エルムの双方にとって貴重な機会となりました。

AIで拓く 無限の可能性

— サッポロから世界に発信 —

株式会社 テクノフェイス 代表取締役 石田 崇



北大入学の経緯 自然の流れで北大へ

札幌出身で周りの多くの同級生が北大に進学する状況もあって、ごく自然の流れで北大に進学しました。もともと機械が好きだったことから、「理工」系を志望し、学部選択は機械系と情報系のどちらにも関心があり、双方を網羅する「精密工学科」に進むこととなり、その後、学科の改組によりシステム情報工学科となりました。

学生時代

「人工知能」の研究を きっかけに大学院へ

研究室では、自ら研究テーマを見つけることを求められ、自律的に物考える「人工生命」について研究を進め、当時人工知能のブームだったことから、この分野の研究に深く関わることとなりました。研究を進めるうちにより深く探求したいという気持ちが強まり修士課程に進みました。修士終了時には指導教官から学位(博士)の取得を強く勧められたことから博士課程に進むこととなりました。

博士課程では、学術振興会の特別研究員に採用され、学位取得後も1



年間ポストドクとして研究を続け、研究成果は論文の他、特許も取得するなど、一定の実績をあげることができました。この当時、研究の中心を方向転換し、ITの基盤技術に関連する「OpenSOAP*プロジェクト」に軸足を移すこととなり、このプロジェクトでは外部資金も獲得し、研究内容が結果的に「テクノフェイス」の起業に繋がりました。

*SOAP (Simple object Access Protocol)略

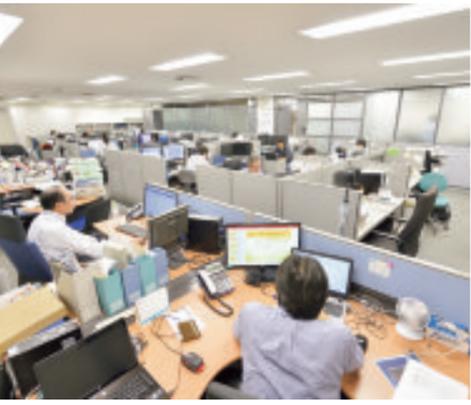
世の中に普及するものに 携わりたい

研究活動を続けるなかで「世の中に普及するものに携わりたい」とい

う気持ちが強まり、当時、北海道大学の研究室で「人工知能」の研究をしていたメンバーが中心となって起業されたベンチャー企業である「テクノフェイス」に参画しました。

当初の業務としては、ミドルウェアのシーズを使って、様々な企業等からの技術開発受託を中心としており、道庁や北電などの資本提供もあって、設立2年目から黒字経営が続いており、企業経営としては微増ながらも右肩上がりに順調に成長してきたこととなります。

現在も北海道大学の研究室との密接な関係は続いており、協力体制としてシステム開発寄りのところは当社で担当し、研究寄りのところは北海道大学との共同研究にしようというようなやり方で産学連携を進めています。



また、当社の特徴として、ほぼ辞める社員が少ないため、創業時からスタッフも多く、少数精鋭で地域に根ざした事業展開を行っています。

AIでサッポロから世界に発信

サッポロに根ざして 活躍する ハイスキル人材を育成

当社の目指すところは、サッポロに高度なIT技術を集積し、地域に根ざして活躍するハイスキルな人材を育成して、人工知能(AI)やオープンソースソフトウェア(OSS)を活用した開発技術をもって事業を行い、地域の活性化にも貢献することです。

また、大手企業が新たな事業を始める際に、当社にAIなど最新技術を活用したシステム開発の依頼がくることがあり、多くの場合、成果物を含むあらゆる権利を発注先の企業に帰属するように要求されますが、実績が増えるに従い、顧客と対等な契約を結び、自社の知財として蓄積して製品化するように努めています。そのため、今後はAIの汎用サービスの開発にも力を注いで、世界に発信することに取り組んでいきたいと考えています。

AIの未来

課題解決が ベンチャーの醍醐味

現状のAIは万能ではなく、泥臭く個別に対応する必要がありますが、弊社ほどの会社よりも多くAIによる課題解決をこなしてきており、まさにこれがベンチャー企業の醍醐味であり、この経験から、コアとなるものが少しだけ見えてきたと感じています。

今後この分野でリーダー的なポジションを維持しつつ、地場で活動することにこだわって関係企業や研究機関と共に最先端のソフトウェア技術を駆使したものづくりを行って参ります。

次代を担う世代へのメッセージ

満足感・達成感を感じられる 仕事を選んで欲しい

ベンチャー企業では、会社全般を見わたすことができ、自分の作ったものが直接ユーザーに使われるところまで見届けることで満足感や達成感が得られます。また、サッポロから世界に発信する仕事ができることも大きな意義として考えていただきたいと思います。

Profile

〔略歴〕

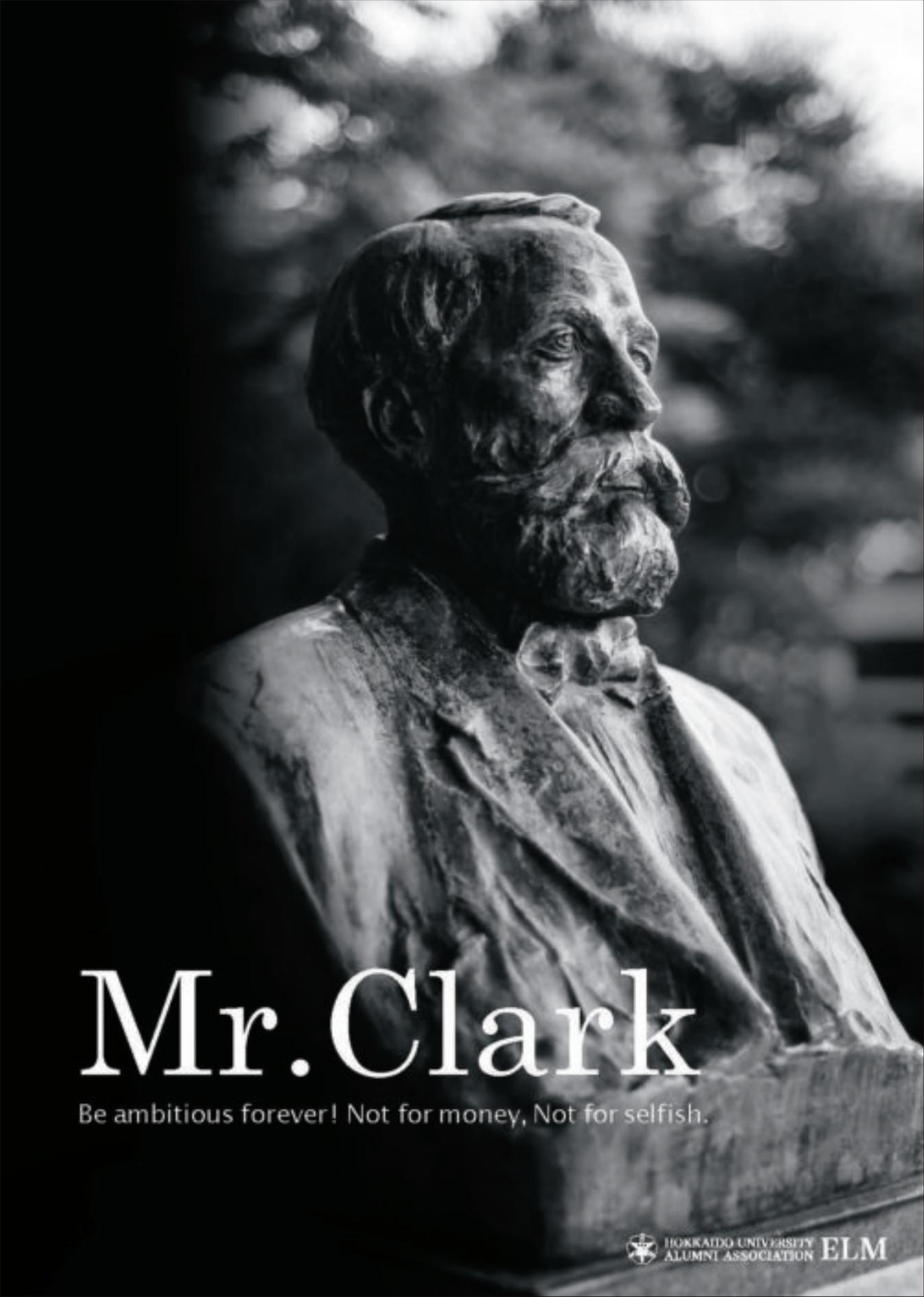
- 1996年3月 北海道大学工学部精密工学科卒
- 1998年3月 大学院工学研究科システム情報工学専攻修士課程修了
- 2001年3月 博士課程修了
- 2001年4月 日本学術振興会特別研究員 PD 採用
- 2002年6月 株式会社テクノフェイス設立・入社
(北大発認定ベンチャー企業)
- 2010年7月 代表取締役就任

現在に至る

AI(人工知能)俳句「一茶くん」

北海道大学を中心とした「札幌AIラボ」で開発が進むプロジェクト。目指すのは、「写真から俳句を詠む」ことで、AIが最も不得意とされている「感性」や「独創性」の結実した俳句づくりに挑戦し、(株)テクノフェイスは画像を文字列に変換し、その文字列を俳句に変換するプログラム開発を担当。





Mr. Clark

Be ambitious forever! Not for money, Not for selfish.

 HOKKAIDO UNIVERSITY
ALUMNI ASSOCIATION ELM



北海道大学校友会エルム事務局

〒060-0809 札幌市北区北9条西6丁目 北海道大学 百年記念会館内

TEL : 011-706-2101 FAX : 011-706-2010

MAIL : kouyukai@general.hokudai.ac.jp HP : <http://www.alumni-hokudai.jp>

